

小規模多機能型居宅介護「サービス評価」 総括表

法人名	社会福祉法人不動園	代表者	河邊和敏	法人・事業所の特徴	「第2の我が家」を合言葉に、笑顔でゆったり過ごせる事業所目指している。決められたスケジュールに利用者をはめ込むのではなく、利用者個々の状態や想いに応じて、通所や訪問を柔軟に組み合わせた個別支援を提供している。
事業所名	サテライト型 いさなご荘	管理者	松本章子		

出席者	市町村職員	知見を有するもの	地域住民・地域団体	利用者	利用者家族	地域包括支援センター	近隣事業所	事業所職員	その他	合計
	0人	0人	6人	1人	1人	1人	0人	4人	0人	13人

項目	前回の改善計画	前回の改善計画に対する取組み・結果	意見	今回の改善計画
A. 事業所自己評価の確認	<p>①介護の専門性を深める取り組みとして、介護過程の展開など根拠に基づいた学習機会を設け、振り返りと評価を継続しながらチーム全体で学ぶ。</p> <p>②ミーティングの中で職員全員が気付き等の発信を積極的に行い、報連相を徹底し、情報を共有する。</p>	<p>①事故やヒヤリハット、苦情や感染症があった場合、速やかに全職員対象として振り返りと今後の処置について意見交換を行った。検討した対応策についても定期的に振り返りを行い、意識が薄れる事が無い様にしている。</p> <p>②ミーティングの中で活発な意見交流が出来ている。専門職として根拠に基づかない判断があった場合には、リーダー職が都度、根拠を示し軌道修正を図っている。</p>	<p>【外部評価より】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>何かあった時には全員で検証しコミュニケーションを図り、それも運営推進会議でしっかり伝達される。真摯に受け止め職員が成長しようという姿勢が伺える。</li> <li>少人数の職員で丁寧な対応をしておられる事がよくわかります。</li> <li>評価がしっかり出来ている事で次に向かう為の改善点が明確になっている。</li> </ul>	<p>①会議や研修の場で職員自らが意見を述べ、チーム全体が専門職として成長できる様、学習→実行→振り返り→評価を継続する。</p> <p>②発生した事故や苦情等について一般職でも状況に応じて初期対応が行えるよう、リスクマネジメントの研修を実施する。</p>
B. 事業所のしつらえ・環境	<p>①事業所の安全を確保する為に担当者を1名選任し安全衛生巡視を2か月に1度行います。</p> <p>②事業所のセキュリティについて6か月に1度見直しを行う。</p> <p>③地域や来荘される方に事業所の入口や機能が分かる様に看板を設置する。</p>	<p>①リーダー職が2か月に1度巡視を行い、報告書を作成し管理者へ提出し確認している。</p> <p>②①同様に巡視の際システムの点検を実施している。</p> <p>③看板を設置したが、カブ入り口のみ記載となっている。機能までは判らないと思う。</p>	<p>【外部評価より】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>施設は敷居が高いですが、建物は民家の様なので抵抗が少ないと思いますが、ご家族や地域住民が立ち寄り易いか？と言われると疑問が残ります。</li> <li>会議スペースとご利用者のスペースが異なるので分からない。外からも事業所の様子が伺えない。</li> <li>カブスペースを職員へ負担を掛けず有効活用させていただけると良いなと思います。</li> </ul>	<p>①事業所の機能や様子等は広報誌の紙面に掲載し、回覧や配布先を検討する事で近隣の方へ周知を図る事で身近に感じてもらえる様努める。</p> <p>②感染症対策を講じたうえで、ご利用者と来訪者が交流できる機会を企画する。</p>

<p>C. 事業所と地域のかかわり</p>	<p>①地域へ事業所の様子を知っていただける様に広報誌を1年に2回発行する。 ②地域の要である民生委員等と顔の見える関係が保てる様に、サロン活動や懇談会への参加や事業所の役割に応じた相談を受ける。 ③地域の行事や避難訓練等へ参加する。</p>	<p>①広報誌は年2回発行し、紙面も充実させる事が出来た。広報誌の配布(回覧)先をどこまで対象とするのか検討が必要。 ②懇談会やサロンへ参加させていただいた。随時電話による相談も受け交流する事が出来た。 ③体制等をよく考えながら行事に参加する事が出来た。</p>	<p>【外部評価より】 ・広報誌が、ご家族や地域回覧板にて回っていないので、発行されている事すら知らない人もおられるのではないかと回覧や配布の範囲を検討されたら良い。 ・民生委員との関係が良好。うまくコミュニケーションが図れている。 ・事業所がある事は随分知られる様になっているが小規模多機能型という事業所の理解が乏しいと感じる。広報は大切ですよ。一般職員の紹介もして欲しい。</p>	<p>①B-①の通り、広報誌の回覧・配布先を定め、目的に応じた広報活動を行う。 ②小規模多機能型居宅介護事業所自体の理解が不足している実感がある。広報誌やホームページにて分かりやすい説明を掲載する。過剰な営業活動にならない様配慮しつつ、サロン活動で事業所を知ってもらえる機会を設ける。</p>
<p>D. 地域に出向いて本人の暮らしを支える取組み</p>	<p>①C-②及び③と同じ。 ②地域の中でどの様な資源があるのか情報収集する。</p>	<p>①C-②及び③と同じ ②民生委員との交流機会が増えた事で、地域の見守り機能や地域の課題について少しずつ理解が進んだ。</p>	<p>【外部評価より】 ・利用者を一人の生活者/地域住民として捉え、支援をされている。更に事業所を知ってもらえる取り組みをお願いします。 ・地域の行事に連れて行ってもらっているのでしょうか？事業所が地域の交流の場になっているのも良いと思います。 ・民生委員の会合で認知症研修をしてもらい、知識が深まった。</p>	<p>①所在区域内で計画される行事を予め伺い、ご利用者と職員が参加出来る物を事業計画内で予定立てを行う。広報誌にも行事予定をして掲載する。 ②ご利用者が地域で安心して生活していけるよう、地域からの相談や認知症等の啓発を行う。</p>
<p>E. 運営推進会議を活かした取組み</p>	<p>①活発な交流を継続できる様にご利用者の支援や事業所の運営に必要な議題を運営推進会議で検討できる様、会議準備や進行を工夫します。 ②感染症対策を講じたうえで、地域の高齢者や運営推進会議の委員等と、通所されているご利用者や職員が交流できる機会を設ける</p>	<p>①委員の方々より積極的なご意見が頂けている。事故や苦情が発生した際には事実を報告し、助言を受けている。事業所運営には欠かせない会議になっている。 ②運営推進会議の委員より、一般職員との交流を会議の場で設けてみるのはどうか？と助言を得ていたが、感染症や支援業務の都合により叶わなかった。地域の行事では交流機会が設けられた。</p>	<p>【外部評価より】 ・感染症対策を講じながら、地域交流会や介護者の集い、介護の勉強会などがあれば嬉しい。 ・苦情や事故を精査し、会議の場で開示され得た助言を真摯に受け止められています。 ・会議の進行、議題、委員とのコミュニケーションがうまく出来ているので良い会議だと思います。 ・地域にこの施設があって嬉しい</p>	<p>①本体あけぼの荘の職員も参加し事業所の役割である介護等における情報を発信できるサロンを企画する。 ②運営推進会議内で必須の検討事項は引き続き丁寧に説明し、得た助言は真摯に受けとめる。その他にご利用者や職員と交流していただける機会を企画する。</p>

<p>F. 事業所の 防災・災害対策</p>	<p>①BCP(業務継続計画)を完成させ職員に周知徹底を図る。 ②BCPを基に、避難訓練や備蓄品の管理を行う。 ③大雨等の際は、土砂災害危険区域である裏山の状態を目視し、安全を優先した避難行動を行う。それについて全職員が対応できる様指導を行う。</p>	<p>①法人内で委員を選定しBCPを完成させる事が出来た。会議の場で伝達をしている。 ②BCPの中からひと項目ずつ研修を行っている。訓練も実施した。 ③大雨が降った際には特にリーダー職が事業所周囲の安全確認を実施している。BCPの研修と併せて全職員に指導していく。</p>	<p>【外部評価より】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・災害の時こそ避難し宿泊出来れば助かりますが危険区域なので仕方が無いですが…。</li> <li>・事業所訓練の実施やBCP等の取り組みが見えにくいです。</li> <li>・BCPはどの事業所も初めての取り組みなので他事業所の物が見れると参考になるかも知れません。</li> </ul>	<p>①策定したBCPを事業所内役職者にて再度見直し、必要な所を更新する。 ②BCPを入職者のリエンション項目に追加する。 ③京丹後市内専門部会(小規模多機能部会)の議題にBCPを取り上げ、情報を共有する。 ④運営推進会議の場でBCPについて開示する。</p>
----------------------------	--	--	---	--